

# 婦人会報

立教185年 12 月 2022年 令和四年



天理教婦人会旭日支部

通巻522号

婦人会 旭日支部  
第88回総会  
記念講演

R185.10.30

## 「陽気ぐらしへの道」

天理教一筋分教会長

西村 和久 先生

事情部講師、基礎講座講師

天理時報特別号人間いきいき通信

「身近で聞いた素朴な問い」にWAKUWAKU

が答えします」掲載中



### 親神様からのお手紙

私は、寝ている時に息が止まる睡眠時無呼吸症候群なのです。自覚症状というよりは、横で寝ている家内に指摘されて、初めて自覚したようなことです。検査後の診察で、一時間に21回無呼吸、もしくは低酸素状態になっており、中程度の症状ということでした。21回というのが洒落ているなと思いました。朝夕のおつとめで「あしきをはろうて」を21回つとめます。我が胸を払うお手に、これは、しっかり胸の掃除をしなさ

いということかなと思いました。何より睡眠の質が良くないので昼間眠たく、車の運転中に突然、あるいは会議中、おつとめの最中にも眠くなります。それでCPAP療法をすることになりました。枕元に置いたCPAPという機械から圧のかかった空気が送られてきて、寝ている間も息が止まらないようになります。機械のおかげで目覚めすつきり、よく眠れるようになりました。このことは寝ている間は、お金を払って空気を吸っているようなことです。そうやって初めて、ずっと夕ダで空気を吸わせてもらっ

ていたことを実感いたしました。診断書や請求書がお医者さんからの手紙であるとすれば、病気そのものは神様からのお手紙です。そのお手紙を読んで、自分の身を見つめ、神様が教えてくださることを自分なりに理解して、お応えしていかないといけないなと思っております。私の場合、相手はつと息をのむようなきつい言葉、あるいは理屈で言い負かしてとどめを刺すような、相手の息の根を止めるような言葉使用があつてはいけないと反省しています。そして、何よりも誰もが隔てなく、十分な

火水風のご守護をいただいているというこの大いなるお恵みに気付くこと、実感することが大切だと思います。その実感がなければ、感謝の気持ちも湧いてこないし、御恩報じの行いにもつながらないと思います。親神様のご守護に感謝し、御恩に報いることを忘れてはいけないと改めて感じています。

感謝の心、忘れるべからず

昔から、金や銀は少ないから貴重とされ値打ちのあるものとして扱われます。一方、無限にあると思えるもの、太陽エネルギー、地球上で循環する水、空気、海で捕れる魚や田畑の作物に、日々感謝する人、沈む夕日に手を合わせる

人は少ないですね。お風呂のお湯をすくって頭を下げるなど、常に感謝の気持ちに立ち戻り、親神様のご守護を見失わないことが、私たちの人生を確かなものにしていくに違いはないと思います。コロナ禍が続ぎ、自然災害も度々起こっている今日、これらを通じて、私たちの心の入れ替えを促してくださっているのだとお教えいただきます。

十人十色

日常生活の中で、右脳を優先的に使うことで、直感的イメージが広がり、空間的認知能力を認識することが得意な方がいます。また、数字や言葉で計算分析するのが得意な左脳優先的な方もいます。性

差的にも多く分けられます。生きてきた環境の違い、社会的な立場の違い、一人として同じというわけではなく、自分と違って当然だということですね。そう思うだけで、理解してもらえないなどと心を乱さずに済むかもしれません。あるいは相手の傾向を知ることが、伝え方を工夫することができるとも思いません。

あなたの脳の特徴と性格がわかる!? どちらが下にくる?

腕を組む 手を組む	 <b>左腕が下</b>	 <b>右腕が下</b>
 <b>左手が下</b>	<b>A</b> <small>左脳タイプ</small> 真面目 努力家 行動が几帳面	<b>B</b> <small>右脳タイプ</small> 社交的 おしゃべり クヨクヨする
 <b>右手が下</b>	<b>C</b> <small>左脳タイプ</small> 完璧主義 個性派 自己中心的	<b>D</b> <small>右脳タイプ</small> 楽天的 マイペース 直感で行動する



## 種まきと伏せ込み

さて、私たちようぼくの第一の使命は、にをいがけおたすけです。にをいがけは、街中の家々に幸せの種を蒔いて歩くようなものという意味で、よく種まきにも例えられます。

みかぐらうた七下り目に、

八ツ やしき八かみのでんぢやで

まいたるたねハみなはへる

九ツ こゝハこのよのでんぢなら

わしもしつかりたねをまこ

とあります。この世は最高の田地だということなんです。神様の

声を真剣に聞いて、真実の種を蒔けば、私たちの常識や人知を超えたご守護をいただくことができるのではないかと思います。

それから種を蒔くときは、やはり人に知られないように蒔くのが大事だと思います。人に見えないように、土の中に埋めて伏せ込む。すると、時には臭い肥やしをかけられるかもしれない。あるいは、知らないうちに、掘り起こされるかもしれない。しかし、だからこそ立派な芽が出て、結構なご守護をいただけるのではないかと思います。良いことだけをして認めてもらっていたのでは、一つ蒔いたはずの種を一粒食べてしまつて、それで終わりということになるのではないかと思います。戸別訪問

も、嫌がられたり、迷惑がられて、頭を下げて何をしているんだろうなと思うこともあります。助かってもらいたいという真実の種であれば、親神様がお受け取りください、芽の出るご守護をただけます。無駄なことは何ひとつないのです。いずれ良い結果につながるものと信じます。

## 共に歩めば

聴くことはそれだけで援助になると言われています。相手の話を聴く際、大事なことは「反復する」と「ちよつと待つ」ことだと教えていただきました。





「反復する」とは、相手の言われた言葉を、その通り返すという技法です。受け取っては言葉にしてそのまま返す。それによって相手はわかってもらえたと感じます。それが一つ一つ、積み重なっていくことで、相手はだんだんと冷静になって、孤独が和らぐという訳です。マイナスの感情も少なくなっ

て前向きになるということですね。それは簡単なようではなかなかできません。こちらが先回りをしたり、正解を言うのではなくて、相手のマイナスの感情にもじつくり付き合ってからついていくような歩み寄り、寄り添い方が大切なんです。

「ちょっと待つ」とは、具体的には相手が何か言うまで待つということですが、会話の中で沈黙があれば、こちらの意見を言ってしまうのがちです。そういう時に、大体相手の話や気持ちを十分に聴けていないことが多いと思います。相手の発言をいちいち評価しながら聴いたり、自分にも同じような体験があれば、良かれと思ってそれを伝えたくなるし、自分が理解したことを示すために「つまり」、「要するに」、「それは」と別の表現に言い換えて返したくなりませんが、聴くという事は語ってもらうことだと忘れることにはならないと思います。言葉に添えられた気持ちを聴く。本当に聴いてほしいことは何なのかということに気づくことが大切ということ

です。



## 節から芽が出る

神様は私たちを強く、しっかりと育ててやろうという上から、いろいろな試練や節をお与えくださいます。その神様の存在とお働きを信じてもたれるところに、大きなご守護をいただけるのです。振り返ってみて、自分の人生は節だらけと思う方も、ひとつも無駄なことはありません。その貴重な経験を生かして、今、まさに難儀している人が傍におられれば、親身になって寄り添い、悩みを聴いてあげることが出来ます。そういったすけ心、心の広さ、優しさも、節を経験した人ほど発揮できるのではないかと思います。この世の

中は、互い立て合い助け合いでこそ成り立ち、栄えていくのだと教えられます。人を立てて、人を喜ばせることを我が喜びとし、満足して通る。その歩みも地道に積み重ねていくことこそが、間違いない人生の歩み方であろうと思います。

### 人を救って我が身救かる

人間社会にはいろいろな力関係があります。腕力、権力、経済力、そういったさまざまな力を頼りとする生き方がありますが、そんな中で親神様は、一番強いのは誠の心だとおっしゃい

※ おかきさげに

誠の心と言え、一寸には弱いように皆思うけれど、誠より堅き長きものは無い。

とお教えいただきます。また、

人を救ける心は真の誠一つの理で、救ける理が救かるという。

とお教えいただいています。我が身を忘れて、ただ真実に人をたすけたいという心は、いわば誠の中の誠でこの精神を貫けば、その心は天の理にかなって、親神様はどんなたすけも引き受けてくださるのではないかと思えます。親神様は私たちの親ですから、どの子ども皆かわい、たすけてやりたいと

思っておられます。我々はどうかというと、正直なところたすけてほしいと思ってることは、無理のないことだと思えますが、自分のことより、人のたすかりを願えるのであれば、親は、真実そのものを受け取って、その願いを叶えてくださると思えます。そして願っていたその人のことも、決して放っておかれないのではないかと思えます。私たちは、誠の心、たすけ心を発揮するたびに、親の心に近づいて、次第に陽気に明るく救われていくことになるのだと思えます。



## 陽気ぐらしへの道

お道の教えはとても深く広いもので、聞けば聞くほど素晴らしいと感じます。しかし「聞いてなるほどは、他人の理、おこなうてなるほどで我のもの」と聞かせて頂きます。やはり、まずは聞いたことを素直に実行することが大切なんです。陽気ぐらしの道場とも言われる教会に集うお互いは、まずは率先して教祖の道具衆、誠のようぼくとなるべく、日々勇んで務めさせていただき、共々にこの道を歩ませていただきたいと思えます。

そうすることで、「たすけの道にいそしむ日々は、晴れやかな喜びに包まれ、湧き上がる楽しさに満たされる。それは、常に、温か

い親神の懐に抱かれ、人をたすけて我が身たすかる安らぎの中に身を置く」（天理教教典第十章より）という陽気ぐらしの境地に至り、決して間違いの無い結構な道を歩めるのだと確信しております。

※おかきさげとは、おさづけを頂いたあと、仮席（ようぼくの心の治め方、おたすけに向いたときの心得やおさづけの取り次ぎ方などが説かれる場）で渡される書き物のこと。

旭日大教会のホームページです。  
第88回婦人会旭日支部総会のダイジェスト映像、大教会長様祝辞、支部長挨拶、記念講演の動画を「視聴頂けます。」

「うんこ」活用下やごませ。

\*URL <https://asahi49.net>



## 本部ひのきしん

去る、11月5日（土）、お天気のご守護のもと、婦人会旭日支部例会の行事で本部ひのきしんに行かせて頂きました。参加者は大人48名、子ども2名でした。





# 私の願い

若い頃、主人に薦められて『原因と結果の法則』という自己啓発本を読みました。そこから送られてくるメッセージは、「自分を取り巻く**環境**と言う**結果**は、**自分の思い**という**原因**が作り出したものだ」ということでした。教会に育ち、子どもの頃から同じように、「成つてくるのが天の理」「心一つが我の理」などと聞かせていた、だいておりましたのに、人生に起こるすべては、自分に原因があるとはなかなか心に治まらず、「なぜなぜ？分からない、分からない？」ともがいていた頃もありました。けれども、その本から送られてくるメッセージが、なぜかストンと心に落ちた日のことを思い出します。

還暦も過ぎて、自分の人生を振り返りますと越えてきた全てのことは、自分が原因、そしてそこには深い意味があり、全ては神に導かれていると、



機本委員長

松田 和代

そのように思います。また、どこへ導かれているといえ、陽気ぐらしへ導かれているのだと信じていることが出来ます。

今年6月、前会長である父が出直しましたが、現役の頃父は、初席の方が参拝されると必ず同じ話をしておりました。「どんなものにも目的がある。人間を創造された神にもその目的があるんです。陽気ぐらしという生きる目的を確かに教えてくださっているという本教の教えは、他に類をみない素晴らしい教えなんです。人生に起こる全てが、その目的のために神の導きとして自分に与えられるのです。」と話しておりました。いつもお茶をお出ししながらその話を聞いておりましたが、いつの間にか「成る程、それをまず伝えねば！」と私も思うようになり

ました。そして、陽気ぐらしに導かれていることは分かったけれども、どのように、人生の様々な問題を解決していけば良いのかということになります。教祖は、つとめときづけ、ひのきしん、たんのう、という実践の教えを伝えてくださいました。また、もつとわかりやすく「朝起き、正直、働き」と易しい言葉で深い生き方を教えてくださいました。

「日々常々誠一つと言う、誠の心というのは、一寸には弱いように皆思う。なれど、誠より堅き長きものは無い。誠一つは天の理。天の理なれば、直ぐに受け取る直ぐに返す、一つの理。よう聞き分け。」

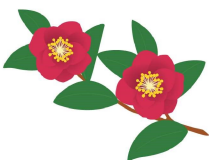
(明治二十二年八月二十一日おさしづ)

とも、聞かせていただきます。神様は親心で導いて下さいますので、優等生でなくても、変わらぬ誠の心で素直に教えを守っていれば、心が弱ったり行き詰まったり絶望したり、そのような逆境を越える時には、叡知や力、出会いを、神が与えてくださるんだと実感しています。

「原因と結果の法則」からいただいたもう一つのメッセージは、「穏やかであることが一番強い」ということです。自分の意見を持ち、信念を持ち、間違いを正して述べることは大切なことですが、常に怒らず、心を乱さず、自分の非は素直に認めてお詫びし、人様に失礼がないよう思いやりの心、広い心で穏やかに全てを受け入れることができれば、それを強い心というのだと教えられました。

諭達が発表されました。

私たちは育てよう、導こうという親心ゆえの苦心の中で生かされています。その親心にお応えできるよう、育ちの遅い私の人生ですが、全てを我が事と受け入れ、穏やかに来世に続くこの道を最後まで陽気に通らせていただけたらと、今願うことはそればかりです。来たるべき教祖一四〇年祭、大教会創立一三〇周年を、皆様と心一つに迎えさせていただきますよう、互いに勇ませ合い、目標を持って歩んでいきたいと思えます。



## 第30回女子青年大会

11月27日(日)、第30回女子青年大会が御本部中庭・東西神苑にて開催されました。

爽やかな晴天の下、旭日からは式典に59名(内、女子青年28名)が参加し、午後からの支部のつどいには47名(内、女子青年20名)が大教会に集まりました。

式典では、婦人会長様ごあいさつ、真柱様メッセージを頂き、続いて3人の女子青年さんが自らの経験を話して下さいました。式典後は、御本部にておつとめ、落ち葉の清掃ひのきしんをさせて頂き、大教会に帰会しました。

支部のつどいでは、式典でのお話をふりかえり、支部長様からお話を頂きました。その後、コロナ感染予防に配慮させて頂きながら、昼食、ビンゴ抽選会で楽しい時間を過ごしました。



みんな いい笑顔です



御本部西参道でひのきしん  
とてもきれいになりました



委員奥様がた手作り  
ハンバーグプレート  
おいしかった♡



委員長さん副委員長さん  
お疲れ様でした!



1等当たったよ～



# 一月例会案内

日時 一月九日(月) 午前十時  
場所 旭日大教会  
内容 教祖祭  
お願いづとめ  
よろづよ八首  
支部長様お話  
お年玉配布(おふでさき短冊等)  
お弁当配布



※ 社会状況により変更になる場合がございます。

## 一月例会役割

扨者	生駒 恵美子	奥村 はる恵
賛者	山崎 さとえ	吉田 せつ
指図方	松田 和代	

## 女子青年例会案内

日時 12月11日(日) 9時より  
場所 旭日大教会  
内容 大教会大掃除  
※ 社会状況により変更になる場合がございます。

### 表紙絵によせて

年の瀬です。年末の今だからこそ、おちばに帰り、今年一年のお礼を申し上げ、明日を元気に迎えることの有り難さを積み重ねていきたいと思えます。来年お正月には本部おせちも再開されます。天理本通りも、帰参者でコロナ禍前のように賑わうといいですね。来たる年、益々笑顔があふれますよう切に願います。

### 訃報

▼日川原分教会 三代委員長

生駒 和先生(享年八十八歳)

十一月二日にお出直しされました。謹んでご生前のご遺徳をお偲び申し上げます。

一時にどう、思うてはいかん

一時にどう、思うてはいかん。

一人の理でもあれば芽が吹く。

だんくくく一年二年の理で大きに成る。

(おさしづ 明治21年12月22日)

発行日 令和四年十二月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町二二八  
天理教婦人会旭日支部